

平成 30 年度の学校評価

- 1 建学の精神「不言実行 あてになる人間」の具現化
- 2 普通科とシステム科を併せ持つ、多様な選択肢のある教育
- 3 授業を大切にし、授業工夫を行うことで、「わかる授業」の展開と推進
- 4 一貫コースを中心とした高大連携教育
- 5 豊かな自然、恵まれた教育環境の中での自己実現
- 6 校則を守り、公共心や公正さを育む教育

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
渉外部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 一般志願者を増やし、募集定員を確保する (2) 女子生徒数の志願者増をめざす (3) 中部大学との「高大一貫教育」を中心に、他校との差別化を進める (4) 普通科、機械電気システム科各コースの「個性を活かす教育」を発信する 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 地元重点地区を中心に、きめ細やかな募集活動を継続する。また、学校評価の向上を目指し、募集の一部見直しを行う。学校見学会では、一層在校生を運営に参加させ、参加者の満足度の向上を目指す。 (2) 女子を意識した広報物を増やし、女子生徒の活躍の情報をより伝える。 (3) 高大一貫教育では、中部大学での進学説明見学会を中学生全学年（保護者）を対象とする行事として、本校の優位性を広範囲にアピール機会とする。 (4) 普通科各コースと機械電気システム科の個別リーフレットの発行に向けて準備する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 見学会等の参加者は増加したが、一般志願者は3.5%減少した。少子化の影響で、今後も十年以上、県内の中学生人口は減少が見込まれる。同時に、統廃合を含めた公私間・私学間の競争の一層激化が予想される。選ばれる学校を念頭に、新カリキュラムへの準備も重要である。 (2) 見学会などの在校生の女子生徒の活動が女子志願者への良いアピールとなっている。今後も在校生の実行委員が主体的に活躍できる見学会の運営を続けたい。 (3) 中部大学との「高大一貫教育」の周知が進み、より細かな問い合わせが増加している。実績などを数値化し説明をしているが、各コースの位置づけを再整理する必要がある。 (4) 募集定員の増加もあり、2科とも全体の募集倍率が低下した。今後は、各科各コースの特色の明確化と具体的な実現を、的確に発信することが求められる。
総務部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度修学旅行の実施に向けての取組 (2) 授業内実施型避難訓練の実施 (3) 新入生オリエンテーションの充実 (4) PTA総会の充実 (5) 中部大学見学会の充実 (6) すすんで朝読書ができるようにする 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度からの取扱業者の変更に伴い、29年度の反省をもとに次学年に引き継ぐ。 (2) 生徒への連絡無しの避難訓練を実施し、非常勤を含めた職員組織の円滑な行動を図る。 (3) 校内生活に関する内容は校内で、中部大学では高大連携意識を高める内容を計画する。 (4) 本年度も参加者増員をねらいとして、進路説明会を計画する。 (5) 保護者の要望の多い内容・見学コースを設定する。PTA総会で企画の広報を行う。 (6) 図書館と連携をし、本の紹介や読書の呼びかけを行う。落ち着いた読書ができるようなマニュアル作りを行う。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 業者の変更に伴い、早めの資料提出と、月1回学年と業者の打ち合わせをすることによりスムーズに事前学習等ができた。 (2) 非常勤教諭への連絡を密に行い対応ができた。いつ災害が起きても対応できる体制づくりをさらに進めたい。 (3) 総合検診日のHRを増やし、ガイダンス等は1日ですまし、2日目に中部大学研修とした。 (4) 中部大学から講師を招き、進路全般にわたる進路説明会を実施し、参加者が増加した。 (5) 見学コースを3コースとし、内容も充実し、参加者も増えた。 (6) 年2回の読書週間。スタート時放送をかける等の工夫により、学校全体での取り組み姿勢ができた。
教務部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 新学習指導要領の内容をふまえた生徒の自発的探求を促す教育課程への移行 (2) ICT教育対応に向けての準備検討 (3) 新校務システムへのスムーズな移行と効率的な利用の定着 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各教科・科目で「持続可能な開発目標、(SDGs)」を教育課程に位置づけ、SDGsの実現にむけた資質・能力の向上を目指し、問題解決能力・コミュニケーション能力等を育む。 (2) 機械電気システム科iPad導入による自発的探求を促す授業展開に向けて、ICT機器を利用できる環境を整備し、積極的利用を図る。 (3) 新校務システム利用を積極的にを行い、利用をしながら問題点の解決を図り利用効率を上げる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 1年生総合的な学習の時間を自発的探究を促す指導に見直しを行い、パソコン室・CAD室を使い実施したが、来年度はタブレットの個人購入が必要となる。 (2) 1年生を中心に、他学年でもICT機器利用の授業展開が積極的に行われている。来年度のタブレット使用のためのWi-Fiアクセスポイントの増設の早急対応が必要である。 (3) 入力に関する混乱を避けるため、非常勤講師を対象に講習会を実施し、旧システムについては情報部が対応した。
生徒指導部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ指導の徹底と生活規律の向上に努める (2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める (3) いじめ防止とSNS利用に関するモラル指導に努める (4) 携帯電話の取り扱いの徹底を図る (5) 薬物乱用防止についての指導を行う 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全校集会、学年集会を通して、問題行動を未然に防ぐ指導を徹底する。 (2) 街頭指導並びに啓発活動により、交通事故防止、交通マナー向上に努める。 (3) 外部業者のネットパトロールを利用し、初期対応の迅速化を図り、関係者との連携を密にする。いじめによる問題行動防止のため、細やかな姿勢で対応する。 (4) 校内での携帯電話取り扱いルールの徹底を行う。 (5) 薬物乱用の講習を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ強化旬間の昼休みに、全体指導だけでなく、生徒指導部を中心に、身だしなみ・携帯電話の指導で校内巡視を行った。 (2) 予防としての指導、外部からの連絡に対する指導を全校・学年・HRでの指導、そして校外の巡視等で迅速に対応した。 (3) 講話や全校・HR等での指導だけでなく、巡回指導を実施した。しかし、見えないところでの使用もあり、対策の必要がある。 (4) 愛知警察署から講師を招き、本年度は薬物乱用防止講演を行った。

特活部	<p>(1) 生徒会執行部の活性化、全員参加型の生徒会行事内容の質の向上と魅力を高める</p> <p>(2) 部活動を物心両面で支援する</p> <p>(3) 学年・分掌との連携を図り、教育相談の円滑化を図る</p>	<p>(1) 生徒会の役員定数の増員を検討し活性化を図る。学校見学会での生徒会学校ツアー等の昨年度の新企画を充実発展させる。</p> <p>(2) 壮行会、優勝報告会等を充実させる。</p> <p>(3) 学年会と連携し、学校カウンセラーによる教育懇談会を実施し、相談を必要とする生徒への速やかな対応に努める。</p>	<p>(1) 役員定数は検討中。学校見学会での見学ツアーや生徒会を中心とした協力員の行動は、入学選抜の面接でも評判が良かった。</p> <p>(2) 男子バスケット部のIH・ウインターカップの準優勝報告会をはじめ、生徒会新聞を4回発行し、部活動や生徒会の活動を全校生徒に紹介した。</p> <p>(3) 1・2年生の学年会と連携し、2回の教育相談懇談会を実施し、教員の資質向上に努めた。</p>
情報部	<p>(1) 新校務システムの有効的な運用方法の確立</p> <p>(2) ICT機器を利用した授業展開の検討</p> <p>(3) ICT教育の具体的な取組に関わる無線ネットワークシステムの構築検討</p>	<p>(1) 新校務システムの本格稼働に伴い、各機能の友好的な利用方法を確立させる。</p> <p>(2) タブレット個人購入に向け、具体的に準備検討する。電子黒板の充実化。</p> <p>(3) ネットワーク接続状況を検証し、タブレット本格導入に備える。</p>	<p>(1) 入試処理システムのカスタマイズを行い、作業効率が上がった。情報配信メールは校内サーバー利用のため、一部不便を感じる。</p> <p>(2) 据付型電子黒板が18台/36教室中となり、移動型8台を含め、利用頻度が高くなった。また、来年度一部iPad個人購入に向けて、電子黒板・タブレット研修会を業者対応により実施し、授業力向上を図った。</p> <p>(3) 無線LAN (Wi-Fi)を機械電気システム科の3教室(1年)と2実習室の計5カ所に設置した。また、教員用と生徒用で46台iPadを導入、授業を行うことで、Wi-Fi接続の使用検証を行った。また、本校セキュリティポリシー作成の準備を行った。</p>
進路指導部	<p>(1) 中部大学入学者166名を実現させる</p> <p>(2) 国公立大学合格者10名を実現させる</p> <p>(3) ポートフォリオをはじめ、入試改革への準備を進める</p> <p>(4) 生徒の希望、適性にあった企業選択を指導し、就職一次合格率90%以上を維持する</p>	<p>(1) 学部別説明会・出張授業・中部大学で学ぶ先輩との懇談会等で学部学科の理解と進学意欲を高める。</p> <p>(2) 学校全体でサポートする体制を作る。生徒の状況、入試形態に応じて、きめ細やかな個別指導を行う。</p> <p>(3) 新入試について情報収集をし、教育課程委員会等で情報を共有する。ポートフォリオ対策として、学びについての調べ学習等の進路研究の機会を増やす。</p> <p>(4) 就職希望者には会社の情報を伝える面談を適宜行い、担任と情報の共有と生徒の意識を高める。</p>	<p>(1) 併設校推薦で158名、公募制推薦で4名が合格している。この3年間増加傾向にある。</p> <p>(2) 国公立大学合格は4名。目標値の達成はできなかった。特進コース以外の受験生に対して、情報共有、サポート体制が不十分であった。特進コース全員、その他コースの希望者でのスタディサブリの利用は、個々の学力に応じた学習に効果的であった。</p> <p>(3) 1年生において、普通科はリクルートのスタディサブリ、システム科はベネッセのClassiを利用してe-Portfolioに対応するシステムの準備が進んでいる。センター試験に代わる共通テストに向け、学力の3要素養成のため、関連部署、学年と連携し探究活動の更なる活性化を図る。</p> <p>(4) 一次合格率は95%で、昨年同様90%を超えることができた。求人は依然として多く、762社から1150名の求人があり、大手企業を含んだ求人が増加した。事務職希望の女子生徒に対し、事務職枠を依頼し内定を得た。</p>
普通科	<p>(1) 入試改革へ対応し、新カリキュラムを見据えた指導の体制を構築する</p> <p>(2) 中部大学・国公立大学の合格者数増と、生徒の学力保証を目指す指導を行う</p> <p>(3) コース毎に進路目標を早期に設定し、豊かな人間性を養いつつ、きめ細やかな進路指導に繋げる</p>	<p>(1) 1年生の総合的な学習でESDを取り入れ、探究型の学習を進める。また、ポートフォリオの蓄積をふまえたホームルーム運営を心がける。</p> <p>(2) 英語の学び直しは英語Ⅰに委ね、過去問演習など対策を強化して、英語検定合格率の向上に繋げたい。また、自習室の運営方法を再検討し、スタディサブリの活用を含め、個別指導と学習支援の体制を強化する。</p> <p>(3) 進路研究会を継続し、中部大学をはじめとする大学理解をし、進路指導方法の充実に努める。</p>	<p>(1) 探究学習は前向きに取り組む生徒が多く見られたが、実施方法などの課題がみつかった。e-Portfolioの運用が始まったが、記述内容等を早急に整備する必要がある。</p> <p>(2) 自習室の開設方法の変更については賛成の声が多い。学習量調査、成績優秀者の公表は定着し一定の効果が認められるが、今後はさらなる有効活用の方法を検討したい。英単語テストの取り組み、英検対策は生徒の意識喚起に工夫が必要である。</p> <p>(3) 進路研究会による情報共有はできている。中部大学の特定学科への希望者の集中や希望増に対する対応の検討が迫られている。日々の学習と部活動との両立に向けた指導について具体的な方策が必要である。</p>
機械・電気システム科	<p>(1) 資格・検定の合格者を増やすなど、生徒の専門能力の向上を図る</p> <p>(2) 地域貢献を視野に入れた対外的な活動の拡充と実績の向上を図る</p> <p>(3) 機械電気システム科としての特徴づくりと立案を図る</p> <p>(4) 専門課程を学ぶ意義を理解かせるとともに、進路意識の高揚を図る</p>	<p>(1) ジュニアマイスター顕彰取得率の増加や、社会的に高く評価されている試験の合格実績の向上を図る。</p> <p>(2) 各種競技会、地域イベントへの積極的参加を教員や生徒に働きかける。</p> <p>(3) 学校法人の行動計画、SPH申請など、機械電気システム科の将来を視野に入れた計画を実施する。</p> <p>(4) 教員の資質向上のために研修を行い、授業の充実に努める。</p>	<p>(1) ジュニアマイスター顕彰取得者数は例年とほぼ同数。1年生の愛知県技術顕彰該当者が全体の1/3、資格検定の合格率についても、昨年度と比較して向上した。1年次からの「基礎学力」、「学ぶ力」の向上のための指導を行う。</p> <p>(2) 機械電気システム科の取組の明確化が必要である。あいちSTEM能力育成事業「知の探究講座」等に積極的な参加を働きかける。</p> <p>(3) SPHの採択については、システム科だけでなく、学校を良くする改革として、全職員で取り組むことが重要である。</p> <p>(4) 生徒の研究成果並びに学習成果の外部への発表を図る。そのため、研修等で、教員の資質向上をさせ、授業の充実に努める。</p>

1年生	<p>(1) 人の話を聞ける生徒の育成と、高校生としての自覚を持たせ、心身の成長を図る</p> <p>(2) 授業規律を守り、基礎学力の定着を図るとともに、早期に学習目標を設定させ、資格取得等に扶助する</p> <p>(3) 自主性を磨き、行動力を備えさせる(行動する失敗したら考えさせる行動する)</p> <p>(4) 将来の進路実現を見据え、目標と課題を意識させる具体案を示すとともに、課外活動にも意欲的に取り組ませる</p>	<p>(1) 学校生活を通じて、ルール・マナーを守るモラルを高めることを意識させることで、規則正しい生活習慣と高校生としての自覚を持たせる。</p> <p>(2) 普通科は英語検定3級以上の取得率向上のために、ST時とHR時の英語単語テストを実施し、英語力の向上を目指す。機械電気システム科は基礎学力の定着を柱に、マナトレ・Classiの導入により自学力の向上を目指す。</p> <p>(3) 様々な教育活動から成功体験を積むことで自信を持たせ、素直で豊かな心を持った生徒になるよう指導・支援する。</p>	<p>(1) 集団生活の大切さや、話を聞く姿勢作するため、学年集会を多く実施した。身だしなみ指導・携帯電話指導では、他学年と協力して、昇降口や校内巡回指導等を行いモラル向上に努めた。</p> <p>(2) 電子黒板の導入により、集中した授業の展開もあり、落ち着いた授業態度で授業に臨めた。普通科は英語検定3級以上取得を目指し、HR等を利用し、予行演習等を実施し学力の向上を図った。機械電気システム科はマナトレ・Classiにおける家庭学習の実施状況が定着してきた。総合的な学習の時間をはじめ、ESD活動を取り入れ、自主性や行動力がつくよう積極的に取り組んだ。</p> <p>(3) ボランティア・校内外清掃活動等に積極的に参加する生徒が増加した。しかし、一部不登校気味の生徒があり、問題解決能力の向上に向けて個々の生徒をよく理解し適切な指導助言にあたりたい。</p>
2年生	<p>(1) 併設校希望者の増加のための意識付けを図る</p> <p>(2) 進路目標を明確化する</p> <p>(3) 身だしなみ・携帯電話取扱指導の徹底と指導面の連携強化を図る</p> <p>(4) 学校内で中心的役割を果たす生徒の育成に努める</p>	<p>(1) オープンキャンパス、出前授業、進路別説明会等で、中部大学の良さをアピールするとともに、進路説明会で保護者に併設校推薦についての理解を図る。</p> <p>(2) 将来のビジョンが描けるように、進学者には校外模試・オープンキャンパス・学校見学会、就職者には企業見学会等で目標の明確化を図る。</p> <p>(3) 身だしなみについては、集会等を通して通学時からの意識を図る。携帯電話については、使用時間だけでなく、使用目的・使用時のマナーやモラルについての指導を関係分掌・他学年と連携して取り組む。</p> <p>(4) 学習面では、授業規律を守り、学力の向上に、学校行事においても率先して取り組ませ充実感・達成感を体験させ自己有用感を高め心身の成長を図る。</p>	<p>(1) オープンキャンパスの参加者の増加、進路説明会は内容を充実したことで生徒への意識付けになった反面、保護者への理解においては薄くなった点が反省点である。</p> <p>(2) 各指導では、強化週間等で関連分掌・他学年と連携して取り組み、指導体系の定着が見られた。</p> <p>(3) 学習意欲の高い生徒が増え学習環境は整ってきた。英検合格者は多いが、次へのステップに繋がっていないことが課題である。</p>
3年生	<p>(1) 最上級生としての自覚とリーダーシップの育成、規範的な行動の実践を図る</p> <p>(2) 主体的な進路決定と、目標の実現に向けて発展的な努力の継続を図る</p> <p>(3) コース、系に沿ったきめ細かな指導と、自らの将来を見据えた思考の育成を図る</p>	<p>(1) 学校生活全般を通して、模範的行動がとれるよう繰り返し指導をし、規範意識を高める。</p> <p>(2) 進路に関する細かな情報の発信と、目標具現化に向けた継続的な努力の定着を図る。</p> <p>(3) 自身の特性を活かした進路結果の追求と、進路先に向けての適応力を促す。</p>	<p>(1) 進路内定後の生活に落ち着きを欠く部分が見られ、学年集会やHR活動などで対応した。</p> <p>(2) 進学については中部大学の併設校推薦者が158名と多くの数を出すことができた。しかし、コースにより希望の偏りがあり、対策が必要である。特進コースの国立合格者は5名であった。就職は、上場企業からの新規および復活求人もあり、大変、好調であった。しかし、複数求人や女子生徒の募集への対応、自動車の準中型免許への対応などの課題はあった。</p> <p>(3) 中部大学進学予定者には、事前課題などを課して、学力向上の努力を継続させている。その他の進路予定者にも、学力面だけでなくマナーやエチケットなど視野を広げる内容のものを開拓ができればと考える。</p>
総合評価	<p>建学の精神「不言実行 あてになる人間」の教育理念のもと、「入れる学校」から「入りたい学校」の具現化を目指し教育実践を行っている。</p> <p>学習指導では、「わかる授業」を目指し、ICT活用授業を奨励し利用度が高まった。1年生の総合的な学習でESDを取り入れ、探究型の学習を進めるとともに、ポートフォリオの蓄積をふまえたホームルーム運営を心がけている。また、外部講師を招いたICT研修や、教員間の研究授業を取り入れ、教員の資質向上を図った。来年度は、1年生普通科特進コースと機械電気システム科1年生のiPad個人購入し、学力強化と、主体的な学習の展開を考えている。</p> <p>生徒指導では、交通安全講話・携帯電話やインターネットに関する講習会・薬物乱用防止講話を外部講師を招き実施し、事故や事件・トラブルに巻き込まれないよう意識の向上を図っている。また、交通マナー違反やモラル等の苦情や、生徒間のSNSによるトラブル等は、分かった時点で担任・学年・生徒指導部の連携で敏速に対応している。そして、生徒一人一人自覚して行動できるよう根気強く指導している。本年度から、ネットパトロールを利用し、依り迅速に対応している。教育相談は、心配な生徒の情報共有し、スクールカウンセラーに助言を得ながら早急に対応している。また、教員に対しても、生徒への対応等について現職研修を行った。</p> <p>進路指導は、就職について大手企業を含んだ求人が増え、762社1150人の求人があった。そして、一次合格者が95%と昨年92%を超え、二次までに全員が合格することができた。今後とも多くの企業との信頼関係を継続していきたい。進学指導では、1年生において、普通科はリクルートのスタディサプリ、システム科はベネッセのClassiを利用してe-Portfolioに対応するシステムの準備が進んでいる。進学補習の整備や自習室の確保など、学習環境の充実に努め意欲の向上を図った。高大連携の強化に伴い、生徒向けの説明会、教員対象の懇談会など中部大学を理解する機会を増やしている。</p> <p>機械電気システム科では、課題研究の充実と、外部講師によるSTEMのアプローチの授業、タブレットを使用した授業を行うなど、SPHの認定を目指し、さまざまな取組を実施した。また、中部大学中高大連携フォーラムでの発表や日進市の多くの行事に参加し、本校の課題研究や防災に関する取り組みの紹介や発表を校外に向けて行った。</p> <p>部活動においては、男子バスケットボール部が、「全国高校総体」「国民体育大会」「全国高校バスケットボール選手権」でいずれも準優勝と大活躍であった。また、少林寺拳法部も「全国高校総体」で、男子団体演武で準優勝と好成績、出場した女子単独演武、男子単独演武、男子組演武すべて決勝に進み、入賞にあつた。ゴルフ部は、「全国高校ゴルフ選手権大会」に女子団体・女子個人にも出場した。また、「全国中学校・高等学校選抜ゴルフマッチプレー選手権大会」に女子個人にも出場し、他の全国大会・中部大会に男女ともに出場している。陸上部は、東海高校総合体育大会に、男子1500M・5000Mに出場。東海高等学校駅伝競</p>		

走大会にも出場し大健闘だった。男子ソフトボール部は、「中日本総合男子ソフトボール選手権」で4年連続優勝を果たした。チアリーダー部は、JAPAN CAP 2018 日本選手権大会のフライデートーナメントの部に初出場することができた。県大会には、女子バスケットボール部、サッカー部、野球部、女子陸上部、女子ソフトボール部、吹奏楽部が出場している。

ESD活動については、ESD部が、第4回全国ユース環境活動発表大会中部地方大会で発表し優秀賞となったのをはじめ、第10回ユネスコスクール全国大会でポスター発表。愛知県ユネスコスクール交流会で発表するとともに、「日進子ども連合会大会」でワークショップを行った。また、機械電気システム科が「にしんわいわいフェスティバル」「にしん市民まつり」等に本年度も参加し、課題研究・部活動で実施しているロケット・レゴ・マイコンカー・防災等の発表・交流を勢力的に行った。また、第3回ESD研究活動大賞発表会を実施し、優秀発表3団体と、機械電気システム科の課題研究優秀班2班が、一高発表会として初めて全校発表を行った。さらに、本年度からESDカンボジア研修を実施し、アンコールワット修復等の取組を行った。